立教大学現代心理学部設立 20 周年記念特別講座
しょうがいと映画 柳澤壽男を語る VOL.1&VOL.2

2026 VOL.1
11/28【土】
『風とゆききし』
(1989)

2026 VOL.2
12/5【土】
『夜明け前の子どもたち』
(1968)

■ 参加費 無料　事前申し込み制

■ ご予約はこちらから⇩

11/28【土】

12/5【土】



■ ゲスト

砂連尾理（振付家・ダンサー）
山田達也（シネマトグラファー）
伊藤亜紗（美学者）

■ 会場

立教大学 新座キャンパス（埼玉県新座市北野 1-2-26）

- VOL.1　9 号館 N921 教室
- VOL.2　8 号館 N8B1 教室

⇦ 会場へのアクセスはこちらから

■ お問い合わせ

心理芸術人文学研究所　mail: riarpah@rikkyo.ac.jp

※ご参加にあたり情報保障やその他の配慮が必要となる場合は、各回1週間前までにご相談ください

■ 主催

立教大学現代心理学部心理芸術人文学研究所

■ 共催

京都大学映画メディア合同研究室

企画概要

近年ドキュメンタリー映画作家として再評価が進む柳澤壽男の「福祉映画５部作」は、戦後日本映画史のみならず、しょうがい者の教育・収容・労働をめぐる歴史とも共鳴しあう作品たちです。
今回の上映会ではゲストをお招きし、さまざまな角度から柳澤映画の魅力を探っていきます。

11月28日（土）



写真提供：神戸映画資料館

『風とゆききし』（1989/154分/DVD上映）

1970年代にリサイクルと在宅福祉をドッキングさせた福祉運動を始め、その後「いきいき牧場」を開設した盛岡市民福祉バンクの活動を４年間追った、柳澤監督最後の作品。しょうがい者と健常者がともに生き生きと暮らす共和国の実現を夢見た柳澤だったが、そこには職員や組織の関係など、乗り越えられぬ大きな壁が存在していた。

スケジュール

13:00　『風とゆききし』上映（154分）
16:05　休憩
16:20　髙野志歩 基調講演
トークセッション
■登壇：砂連尾理、山田達也
髙野志歩（京都大学人間・環境学研究科修士課程）
石田智哉（立教大学現代心理学研究科博士後期課程）
司会・進行：篠崎誠（立教大学現代心理学部教授）
18:20　終了予定

ゲスト

■ 砂連尾理



舞台活動と並行して、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa+Junkan Project」、高齢者との「とつとつダンス」など、ダンスと社会を繋ぐ活動を展開している。
また、濱口竜介、山城知佳子、石田智哉の映像作品にも関わる。
著書に「老人ホームで生まれた＜とつとつダンス＞―ダンスのような、介護のような―」（晶文社）。立教大学現代心理学部映像身体学科教授。

■ 山田達也



瀬川順一に師事、柳澤壽男『風とゆききし』、松川八洲雄監督作品、羽田澄子監督作品、伊勢真一監督作品などのドキュメンタリーや企業VP、IMAXなどに参加。劇映画、CMの助手をへて石原プロにて金宇満司に師事。近年の撮影担当作品はさかはらあつし監督『AGANAI 地下鉄サリン事件と私』（21）、万田邦敏監督『愛のまなざしを』（21）、金子雅和監督『光る川』（24）など。
現代心理学部映像身体学科特任教授。

12月5日（土）



写真提供：神戸映画資料館

『夜明け前の子どもたち』（1968/120分/DVD上映）

1963年に滋賀県野洲町に開設された重症心身障害児施設「びわこ学園」。医療と教育の両面から子どもたちに働きかけようというびわこ学園の試みの記録で、つづく「福祉映画５部作」に取り組んだ柳澤監督の原点とも言える作品。使用した145,000フィートのラッシュフィルムには、学園の職員も映画班も驚くさまざまな事実が焼き付けられていた。カメラマン瀬川順一によって撮影された、いきいきとしたしょうがい児たちのようすが観るものに語りかけてくる。

スケジュール

14:00　『夜明け前の子どもたち』上映（120分）
16:00　休憩
16:15　石田智哉 基調講演
トークセッション
■登壇：伊藤亜紗、石田智哉、髙野志歩
司会・進行：滝浪佑紀（立教大学現代心理学部教授）
18:00　終了予定

ゲスト

■ 伊藤亜紗



美学者。東京科学大学未来社会創成研究院教授。
その人固有の身体的経験や感性のはたらきなど、言葉にしにくいあいまいな領域について研究している。
主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社）、『どもる体』（医学書院）、『手の倫理』（講談社）、『体の居場所をつくる』（朝日出版社）、『身体の美学入門』（中公新書）など。